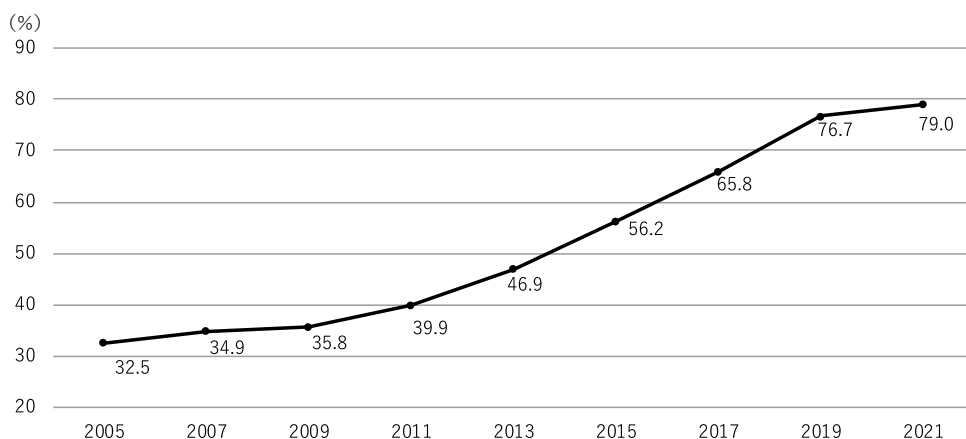


ジェネリック医薬品（後発医薬品）使用割合の推移



2021年に複数の後発医薬品メーカーで不祥事が発覚し、出荷停止が相次いだことで、2022年1月現在、3,000品目以上の薬が品薄になっている。これは医薬品全体の2割にあたる。「いつもの薬がない」、「薬代が上がった」等、患者や薬局から不安と混乱の声が上がる。50巻10号（2016年9月号）の本欄では、日本が後発医薬品の後進国であることを紹介した。その後、国は後発医薬品の使用促進を積極的に取り組み、後発医薬品を選べる際の使用割合は、2021年9月の速報値で79.0%にまで上昇していた。厚生労働省はメーカーに呼びかけ、供給体制の再整備を図っているが、安定供給まではまだかなり時間がかかるとみられている。

厚生労働省「医薬品価格調査」、同HP「後発医薬品（ジェネリック医薬品）使用促進について」より作成